

令和3年度 西東京市立田無第四中学校 関係者評価表（第2回）

学校の教育目標 ○すすんで学び、しっかりと学力をつけよう。（「問題解決力」の育成）○丈夫な体をつくり、豊かな情操を身につけよう。（「実践力」の育成）○友達を大切に、仲間の輪をひろげよう。（「人間関係形成力」の育成）○目標を決め、深く考えて、最後までやりぬこう。（「深く学ぶ力」の育成） ・重点目標 自 治 1 考える 2 思いやる 3 やりぬく					
1 目指す田無四中の姿 (1) 確かな人間関係を基盤とする「温かな学校」 (2) 生徒と教職員一人一人が生き生きとしている「活気ある学校」 (3) 生徒、教職員が一体となり、本気で取り組む「感動あふれる学校」					
2 目指す四中生の姿 (1) 自ら考え、学び視野を広げ、丈夫な体と豊かな人間性を身につけた生徒 (2) 友達を大切に、礼儀正しく接し、相手を思いやれる生徒 (3) 何ごとにも本気でねばり強く取り組み、最後までやりぬく生徒					
3 教職員の姿 (1) 一人一人を大切に生徒に寄り添い、温かく生徒を認める教職員 (2) 教育の専門家として資質向上に心がけ、研修に励む教職員 (3) 教育公務員としての自覚を持ち、信頼される学校をつくる教職員					

	具体的方策	学校自己評価		学校の取り組みおよび改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	授業のユニバーサルデザイン化を重視し、「わかった」と言える授業を実施する。	4	4	四中ユニバーサルデザインにより教育環境を整えた上でわかりやすい授業を目指した。授業のねらいを明確にして、習得したことを活用し、身に付ける授業に取り組んでいく。	A	自己評価は適切である。
	学習用タブレットを中心にICT機器の活用を進め、興味をもって学べる工夫を行う。	3	4	各教室に大型モニターを配置。教材・教具の工夫に研究授業での成果を生かした。コンピュータ・視聴覚機器の授業への活用をさらに進める。	A	自己評価は適切である。西東京市は全国のモデルになっている。さらに利活用を推進していただきたい。
	言語活動を生かした授業に取り組み、「思考力・判断力・表現力」の育成に努める。	3	4	記録する、要約する、説明する、論述するなどの活動を意図的に設定した。さらに、生徒同士の学び合いや考える時間を引き続き増やしていく。	A	自己評価は適切である。生徒の評価を見ると、よくできていたと判断できる。
豊かな心の育成	学校行事や委員会活動、部活動などの諸活動を通して、学級・学年への所属感や自己有用感を育てる。	4	4	それぞれの活動において、所属感や自己有用感を高めるよう指導した。上級生を手本として取り組んでいる。さらに、活動を活発にさせていく。	A	自己評価は適切である。部活動の制約がある中、先生方は生徒によく関わっていた。
	学校図書館の活用を進め、朝読書や読書マラソンに取り組み、読書習慣の定着を図りながら、学びを深めさせる。	4	4	安定して朝読書を実施している。昨年度に続き、学年文庫、読書活動を推進している。特色ある本校の体験学習の機会を今後も生かしていく。	A	自己評価は適切である。継続して取り組んでいることが素晴らしい。是非継続してほしい。オンライン朝読書、オンライン黙想等も取り入れたらどうか。
	道徳で人権や命を大切にする授業に取り組み、自他を尊重する態度を育てる。	4	4	道徳教育、人権尊重教育などを継続して行い、道徳的判断力を育成している。特別の教科道徳の実施に向けて、さらに研修を進める。	A	自己評価は適切である。道徳で習ったことが必ず役に立つ。少ない経験値が芽となり将来の助けになればと思う。正しいことを子どもに教えていくことが大切である。
個に応じた指導	基本的な生活習慣の育成を目指し、①あいさつを交わす②時間を守る③身だしなみを整えるなどのルールやマナーの大切さを理解させ、集団としての成長を図る。	4	4	あいさつ運動、一分前着席など行い、規範意識や生活習慣を日々の生活の中で繰り返し意識づけ指導し、一定の定着が見られる。今後も自分たちで行動できるように指導していく。あじみの励行を進める。	A	自己評価は適切である。具体的な取組として、1分前着席はとても良い。教員が授業の終わりを守ることが大切である。
	ふれあい週間や教育相談活動を充実させ、個々の生徒との関係を築き、いじめの未然防止と早期発見に努め、生徒の学びを支援する。	4	4	職業調べ、身近な人へのインタビュー、職場体験、上級学校調べ等行い、自らの生き方、意識づけを早めに持てるよう指導している。面談や進路説明会さらには丁寧に行っていく。	A	自己評価は適切である。オンライン職場体験を継続してほしい。地元の事業所や保護者ともつながると良いと思う。
地域との連携	ボランティア活動や奉仕活動、清掃活動等を進め、生徒の自主性を伸ばすとともに、地域社会の一員としての自覚を育てる。	3	4	生徒会、ボランティア部等を中心にボランティアへの参加呼びかけをしている。ボランティア活動の報告を朝礼で行っている。医療従事者へのメッセージボードを作成した。	A	自己評価は適切である。日々の清掃活動等、やったことが好きになれる経験が、地域とのつながりがない中で行動に移せる実践力を養うことになる。
	学校公開や学校HP・学校だより、学年だよりなどを通して、本校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。	4	4	各種便り、HPの活用により学校の様子をタイムリーに情報発信している。携帯メールの活用により情報発信も積極的に行っている。今後も続けていく。	A	自己評価は適切である。ホームページで学校の様子をよく伝えている。保護者・地域の実情に応じた、より開かれた学校を目指してほしい。

A：自己評価は適切である。 B：自己評価は適切ではない。 C：評価のための資料が不足している。 D：評価は不可能である。

業務改善	週当たりの在籍時間が60時間を超えない。	4	教職員30人、9月から1月までの在籍時間が60時間を超えなかった割合は98%。60時間を超えた教員は2人、9月にオンライン授業が終わり、計画されていた行事等が10・11月に集中したためと考えられる。
------	----------------------	---	---